中村遺跡（本発掘調査A）

なかむら

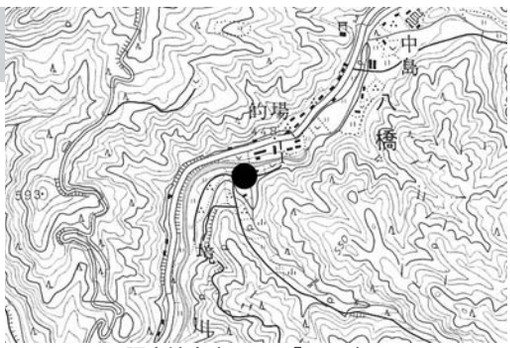
所　在　地　北設楽郡設楽町八橋字道上
（北緯35度7分41秒　東経137度35分16秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成30年12月

調査面積　20㎡

担　当　者　鈴木正貴・永井邦仁・田中　良



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　発掘調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連の事前調査として、国土交通省から愛知県教育委員会を通じて、当センターが委託を受けて実施した。調査は、1m×2mのテストトレンチを6ヵ所と2m×2mのテストトレンンチを2ヵ所の合計8ヵ所を設定して行った。

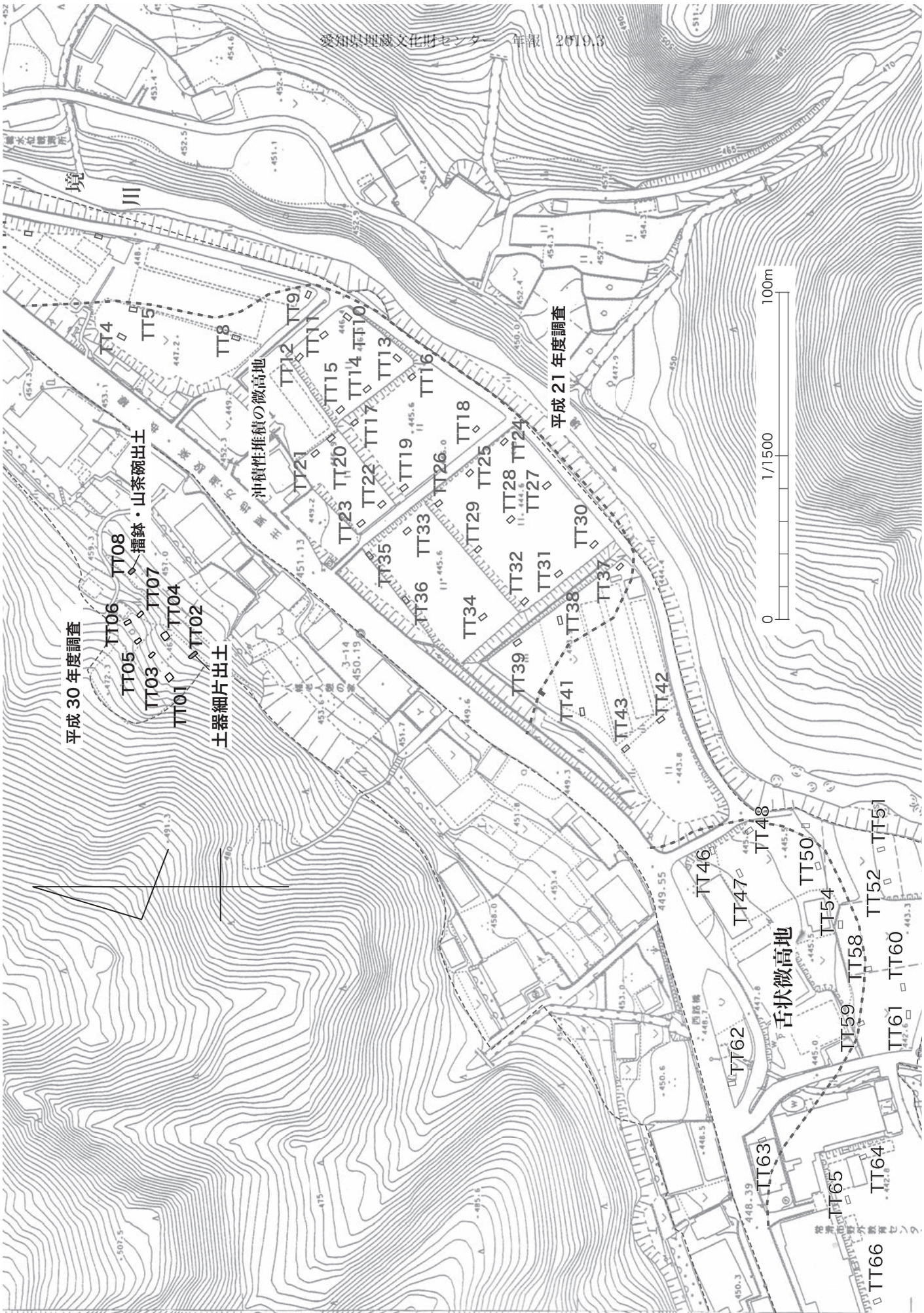
立地と環境　遺跡は、豊川支流の境川上流右岸に所在する（八橋地区）。境川がつくる幅約150mの谷地形の北縁を北東から南西方向に伊那街道が延びており、その沿道に八橋地区の集落が展開する環境にある。街道は標高449～452mにあり、遺跡はそれを境として北西側の斜面地（標高457～472m）と南東側の平坦面（標高445～452m）に立地する。愛知県埋蔵文化財センターが平成21年度に実施した調査では、南東側の平坦面から平安時代から江戸時代までの遺物が出土している。

調査の概要　今回の調査は、北西側の斜面地でおこなった。TT01～TT04では、基盤層まで約2mと深く、TT02で摩滅した土器細片が出土したが、遺構は検出されず、耕作等に伴う撹乱が確認された。TT05とTT06では約30cmほどで基盤層に達したが、遺構や遺物は検出されなかった。TT07とTT08は平場に近い状態で、TT08からは中世の山茶碗や戦国時代の擂鉢が出土したが、基盤層直上に鉄製のアンカーが埋め込まれていた。

ま　と　め　以上の結果、当該地点では遺構や遺物包含層が検出されず、遺物も撹乱の影響を受けていることを確認した。耕作地造成による改変を受けており、遺跡が残存していない可能性が高い。（田中　良）

完掘状況（TT08）

TT08の出土遺物（山茶碗（上）、擂鉢（下））



調査の概要（S=1/1500）